

総務委員会所管事務調査（先進地事例調査）報告書

所管事務調査を実施したので、次のとおり報告する。

記

1 調査期間

平成 30 年 8 月 23 日（木）～ 8 月 24 日（金）

2 調査先および調査事項

静岡県牧之原市

3 調査員等

砂川利男委員長、豊巻直子副委員長、小倉利之委員、黒沼繁樹委員、
下川原光昭委員、澤里富雄委員、八重櫻友夫委員、城内仲悦委員、
及川忠則担当書記

4 調査事項

- (1) 地域リーダー育成プロジェクト第 2 回体験参加
- (2) 対話による協働のまちづくりについて（牧之原市役所榛原庁舎）

5 調査結果

○地域リーダー育成プロジェクト第 2 回体験参加

- | | | |
|---|-----|---|
| 1 | 日 時 | 平成 30 年 8 月 23 日（木）13 時 30 分～16 時 30 分 |
| 2 | 場 所 | 牧之原市総合健康福祉センターさざんか |
| 3 | 出席者 | 一般社団法人サステナ・ダイアログ
牧原ゆりえ代表理事（ファシリテーター）
榛原・相良高校生約 70 名、一般社会人約 10 名
市民ファシリテーター、グラフィッカー
牧之原市企画政策部地域振興課職員 |

4 概 要

(1) 地域リーダー育成プロジェクトの概要

地域を理解して愛着を深めていく人材育成として平成 27 年度より開催。市と高校のほか、地元の企業・官公署と連携して実施している。（企業の P R も兼ねて仕事として参加してもらっている。）

(開催目的)

- ①地域に誇りを持つ
- ②将来地域を担う
- ③地域の課題解決に貢献する

(2) 第2回目の体験内容

- ①アイスブレイク (人間知恵の輪)
- ②8 ブレスハーベスティングシート
→話す人、聴く人、記録する人の3人1組
2分間ずつ交代で行う。
- ③こんなことに役に立ちそうと思ったこと。(グループ対話)
- ④昔こんな風に成功した、またはここが足りなくて失敗したこと。
(グループ対話)
- ⑤最後のテーマ「そのまちでどんなことが起きてほしいですか？」
→5～10分それぞれ自分に問いかけ、発表し合う。

(3) 特色

- ・高校生が率先して、継続して参加。
(推薦入試や就職を有利にするために)
- ・学校の授業カリキュラムに入っている、慣れている。
- ・高校生に将来地域に残ってもらう、戻ってきてもらうことが目的
(≒飯田市公民館の地域人教育)
- ・地域＋学び＋キャリア→対話の場
- ・アイスブレイクが上手い。
- ・毎回事前に話し合いの場を楽しくするための綿密な打ち合わせを、職員と市民ファシリテーターだけでなく高校生も交えて行っている。

○対話による協働のまちづくりについて

- 1 日 時 平成30年8月23日(木) 9時30分～11時30分
- 2 場 所 牧之原市役所榛原庁舎
- 3 出席者 牧之原市企画政策部 辻村浩之部長
田形正典地域振興課長
松浦邦彦地域政策係長

4 概 要

(1) 協働のまちづくりの経緯と概要

- ・相良町と榛原町の合併により対話で一つにするための取り組み
- ・市民や学校の賛同がある→わかってもらうには…

精神＝自治基本条例の制定 地域の住民と行政の連携による実施

・牧之原市の12年間の歩み

① H18 協働・検討期	前市長マニフェスト ～フォーラムまきのはら開設（→失敗）
② H19 試行期	「市民マニフェスト検証大会」開催
③ H20 育成期	「協働のプロジェクト」開始 →市民ファシリテーターの養成
④ H21 実践期	「男女協働サロン」の実施。 →老若男女を問わず誰でも参加できる 話し合いの場
⑤ H22～23 バージョンアップ期	「自治基本条例」策定
⑥ H24～ 協働のまちづくり開始	様々な形態のサロンの展開

・牧之原市の多様なサロン（対話の場）

市内全地域でサロンを開催【実践のワークショップ】

→計画策定

津波防災まちづくり、公共施設マネジメント、
旧片浜小学校活用

→地域づくり

地域の絆づくり事業、片浜地区まちづくり計画

→次世代教育

地域リーダー育成プロジェクト（高校生対象）

※（過疎）坂部地区と（中心部）川崎地区

危機感→継続（地縁）⇔単発（若い人が多い）地域差がある。

・まちつづき・まちまもり⇔まちづくり（違いを意識）

(2) 当市でも取り入れるべき事項

① 市民ファシリテーター人材育成の仕方について

【失敗からの学び】

- ・対話をうまくやって場を楽しくし、継続して参加してもらう
→市民ファシリテーターの重要性
→市民ファシリテーターを増やす方法
→学校教育の仕方の向上にもつながる
- ・レベルの高いファシリテーション、訓練されている技量
会話を絵で表すグラフィッカー

プロから学び、ボランティアの市民ファシリテーターを養成。

- ・ 牧之原市の市民ファシリテーター約 70 人
（老若男女、地域限定含む）

このうち 10 人ほど市全体で活動できるコアなメンバー

②地域における若い世代の巻き込み方

【次世代育成としての高校生教育】

- ・ 地元企業の協力により、仕事として高校生サロンに参加している。（企業の P R を含めて）
- ・ 学校に認知させる必要、先生方と話し合う場
（総合的学習の題材へ）

③地域におけるサロン

【男女協働サロン】

- ・ 身近な話題をネタにサロン
色々なサロンをやることで色々な層の人（老若男女）に参加させる仕掛け。地域でできることは地域でやる自発性を高める。

④市の中心部の活性化

- ・ 牧之原市は公民館を地区市民センター化する考え。
- ・ 中心部、郊外地域問わず市地域で色々な分野のサロンを仕掛け
ている。
- ・ 中心部は海に近いので津波を意識した防災計画からスタート。
（比較的若い人が集まるが、単発的。継続性・結束力が弱い。）

⑤地域組織の形態

- ・ 実行委員会的に地区自治推進協議会（地区長会）をつくった
（相良地区と榛原地区の仕組みの差を均すため）
- ・ 全 10 地区にそれぞれ地域の絆づくり事業推進委員会を設置。